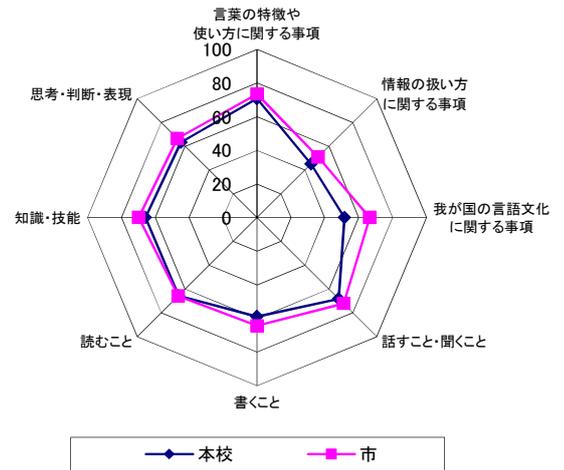


宇都宮市立陽南小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	70.8	73.5	74.4
	情報の扱い方に関する事項	45.2	51.0	51.5
	我が国の言語文化に関する事項	51.6	66.5	68.8
	話すこと・聞くこと	68.3	72.3	73.7
	書くこと	58.9	64.3	66.6
	読むこと	65.6	65.8	64.9
観点別	知識・技能	65.8	69.8	70.8
	思考・判断・表現	63.4	66.5	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

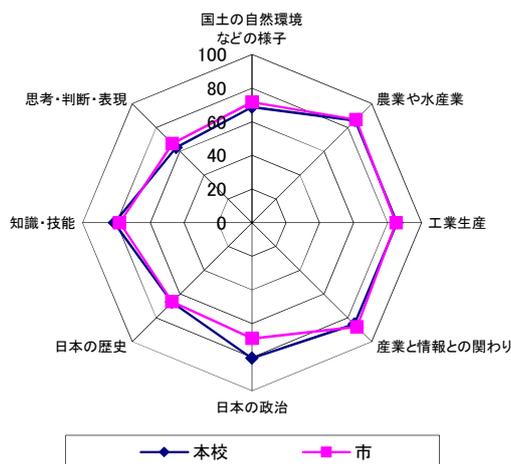
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は市の平均より低い。 ○第5学年の漢字を書く設問において、市の平均よりやや高い正答率であった。 ●文と文との接続の関係についての正答率については、市の平均より低い。接続語の使い方の理解や、「一文目の終わりの五文字」などの答え方への理解について課題が見られる。	・順接や逆接など、文と文との前後関係から適切な接続語を選択する学習を行い、理解を深めていく。 ・授業の導入等で、既習漢字を繰り返し確認する活動を設け、更なる定着を図っていく。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は市の平均より低い。 ○情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書く設問において、市の平均よりやや高い正答率であった。 ●情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理する設問の正答率が、市の平均より低い。文章の内容を短い言葉に置き換えることについて課題が見られる。	・理科や社会科、総合的な学習の時間等も活用しながら、グラフや文章から得られる情報の読み取り活動を行い、自分の意見を適切に表現する指導を行っていく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は市の平均より低い。 ●和語、漢語、外来語についての正答率について、市の平均より低い。複合語の学習の際に復習してきたが、語句の由来に関心をもつことについて課題が見られる。	・ICT機器を積極的に取り入れながら、児童が関心をもって言語についての学習を行えるよう、教材教具の工夫をしていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は市の平均より低い。 ○話の内容を捉える設問において、市の平均よりやや高い正答率であった。 ●聞き取ったことを整理する設問の正答率については、市の平均より低い。話の内容を捉えて、伝えたいことを自分の言葉で表現することに課題が見られる。	・学級活動や普段の生活の中でも、必要な事項や重要な内容は、要点をまとめながらメモを取るなどの指導を行っていく。
書くこと	平均正答率は市の平均より低い。 ○目的や意図に応じた書き方を考える設問において、市の平均よりやや高い正答率であった。 ●指定された長さで文章を書いたり、自分の意見を書いたりする設問の正答率については、市の平均より低く、無回答者もいた。文章を書くことに課題が見られる。	・文章を書く際に、読む人に伝わりやすくするために、内容のまとめりと段落を設けられるような指導を行っていく。
読むこと	平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○物語の内容を読み取る設問において、市の平均を上回っている。 ●説明文の読み取りの中の「情報と情報の関係について理解し、文章の情報を整理する」設問において、正答率が低く課題が見られた。	・たくさんの情報の中から必要な情報を選択したり、情報と情報の関係を理解したりできるように、引き続き授業の中で指導をしていく。

宇都宮市立陽南小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	68.7	71.6	69.6
	農業や水産業	86.0	86.7	83.7
	工業生産	85.5	85.0	79.5
	産業と情報との関わり	85.5	87.7	77.4
	日本の政治	80.6	68.9	71.7
	日本の歴史	66.9	66.7	66.3
観点別	知識・技能	81.2	78.0	76.7
	思考・判断・表現	63.3	66.4	63.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

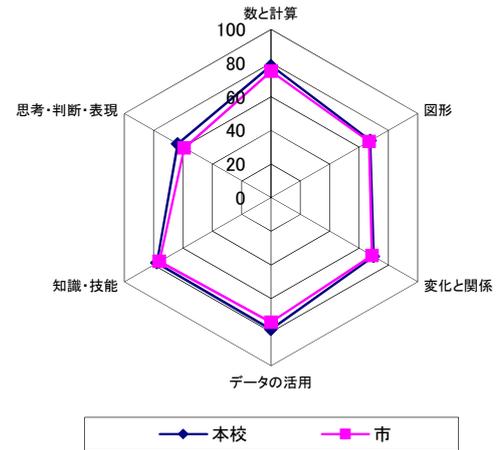
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<p>平均正答率は市の平均より低い。</p> <p>●日本の主な地形の名称の理解に関する設問において、市の平均より低い正答率であった。</p> <p>○オーストラリアの位置や国旗の理解に関する設問において、市の平均より高い正答率であった。</p> <p>●国内の林業が抱える課題を考える設問において、市の平均より低い正答率であった。</p>	<p>・地形や国など、地理的な学習は3年生から段階的に学ぶ内容である。自分たちが暮らす地域や関わりのある国の学習に関心を持てるように授業を工夫し、発達段階に合わせて視点と関心を広げられるようにしていく。</p> <p>・林業に限らず、社会における課題について考える学習を設定していくことで、これからの社会について自分なりの考えを形成する思考力を高めていく。</p>
農業や水産業	<p>平均正答率は市の平均よりやや低い。</p> <p>○水産物の流通の工夫について資料をもとに判断する設問において、市の平均より高い正答率であった。</p> <p>●米の生産の工程に関する設問において、市の平均より低い正答率であった。</p>	<p>・資料の読み取り方、情報の集め方など問題解決学習の基礎となる力を指導していく。</p> <p>・社会的事象について自分の力で情報を集め、まとめていく学習を行っていくことで、能動的に知識、理解を深めていけるようにする。</p>
工業生産	<p>平均正答率は市の平均よりやや高い。</p> <p>○日本の工業の特色に関する設問では、市の平均より高い正答率であった。</p> <p>●自動車の製造工程の理解に関する設問では、市の平均より低い正答率であった。</p>	<p>・米の生産の問題と同じく、工程に係る問題のポイントが低い。単なる工程の説明の授業にならないように注意し、生産者の工夫や思いなどにも着目させながら、社会的事象への関心を高め知識、理解を深めていけるようにする。</p>
産業と情報との関わり	<p>平均正答率は市の平均より低い。</p> <p>●生活と情報の関わりに関する設問において、市の平均より低い正答率であった。</p> <p>●日本の自然環境と生活に関する設問においても、市の平均より低い正答率であり、課題が見られた。</p>	<p>・情報化した社会に関する学習や自然環境の問題の学習については、今後の社会生活においても生活に密接に関わることから、日頃より身近にあふれている様々なメディアに着目させたり、自然環境の現状に関心をもたせたりする機会を設定し、指導を行っていく。</p>
日本の政治	<p>平均正答率は市の平均よりかなり高い。</p> <p>○日本国憲法に関して、天皇の地位についての設問では、市の平均より高い正答率であった。</p> <p>○三権分立のしくみについての設問において、市の平均より高い正答率であった。</p>	<p>・政治についての理解に関しては、歴史の学習とも関連させ、戦前から戦後にかけての歴史的背景にも触れながら学習を行い、成立までの流れを確認していく。</p> <p>・18歳からの政治参加を見据えて学習を進め、自分にも関わりのあることとして主体的に学べるようにする。</p>
日本の歴史	<p>平均正答率は市の平均とほぼ同じである。</p> <p>○縄文時代～平安時代に関する設問では、国の王の呼び名について、市の平均より高い正答率であった。縄文時代の生活の様子についての設問においても、市の平均よりも高い正答率であった。</p> <p>●鎌倉時代～江戸時代に関する設問では、書院造の部屋の様子以外は、どの設問も市の平均正答率を下回った。</p>	<p>・資料から読み取ったことや友達と話し合ったことを基に、学んだ人物の働きや人々の生活の様子を中心に自分の言葉でまとめる活動を意図的に設定し、知識の定着を図る。</p>

宇都宮市立陽南小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	78.5	75.1	75.8
	図形	67.7	66.8	68.3
	変化と関係	69.9	68.8	65.0
	データの活用	78.3	74.1	63.6
観点別	知識・技能	77.8	76.1	75.8
	思考・判断・表現	63.7	59.0	51.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

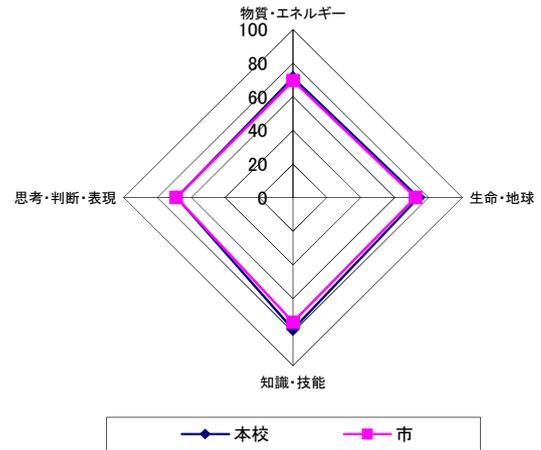
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は市の平均より高い。</p> <p>○図を見て小数倍の文章問題を解くために除法の立式をしたり、文字を使って数量の関係を1つに表したりする問題において、市の平均より高い正答率であり、思考力が高かった。</p> <p>●小数第一位×小数第一位(純小数同士の乗法)の計算問題において、市の平均より低い正答率であり、計算処理に課題が見られた。</p>	<p>・整数、小数、分数などの四則の計算を繰り返し解く機会を設け、計算処理の技能を高めていく。</p> <p>・これまで得た知識から工夫して答えを導き出す算数的活動を取り入れ、求め方と答えを式や言葉、図や数直線を用いて表現する力を伸ばしていく。</p>
図形	<p>平均正答率は市の平均よりやや高い。</p> <p>○直径が与えられた円の面積を求めたり、合同な三角形を作図したりする問題において、市の平均より高い正答率であった。</p> <p>●三角形の内角の和から三角形の1つの外角を求めたり、三角柱の展開図から、見取図の辺の長さを読み取ったりする問題において、市の平均より低い正答率であった。</p>	<p>・図形の性質や定義についての理解を深め、朝の学習の時間などに角度を求める問題に繰り返し取り組んでいく。</p> <p>・習熟度別学習で、児童一人一人の実態に応じた指導支援を充実させていく。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は市の平均よりやや高い。</p> <p>○速さと道のりから、時間を求める問題において、市の平均より高い正答率であった。</p> <p>●基準量と比較量から、割合を求める問題において、市の平均より低い正答率であった。</p>	<p>・問題場面から数量関係を図に表し、基準量・比較量・割合の関係を明らかにして、数量関係を図や数直線に表して立式できるよう、類似問題等で復習の機会を設ける。</p> <p>・自分の考えを的確に説明することができるよう、言葉や式、図などを使って説明する活動を多く設定する。</p>
データの活用	<p>平均正答率は市の平均より高い。</p> <p>○走る距離と歩幅の平均から、ある距離を走るときの歩数を求めたり、問題の場面を理解し、道のりの平均から走る道のりを求めたりする問題において、市の平均より高い正答率であり、思考力が高かった。</p> <p>●ドットプロットのデータを度数分布表に表す問題において、市の平均より低い正答率であった。</p>	<p>・平均値とともに、最頻値や中央値など、代表値の意味や求め方を復習する機会を設けるとともに、生活の中から問題を出題し、ドットプロットや度数分布表でデータ処理をする活動を通して理解を深めていく。</p>

宇都宮市立陽南小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	71.2	69.5	65.2
	生命・地球	74.1	72.3	70.1
観点別	知識・技能	78.3	74.0	70.7
	思考・判断・表現	68.6	68.7	65.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>平均正答率は市の平均よりやや高い。</p> <p>○「水よう液の性質」の設問では、食塩水をリトマス紙に付けたときの色の変化に関する問題において、市の平均より高い正答率であった。</p> <p>●「ふりこのきまり」の設問では、ふりこの周期は振り子の長さに依存することを理解し、同じ周期のものを選択する問題で市の平均より低い正答率であり、課題が見られた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各単元の復習プリントやAIDリルを活用するなどして、更なる学習内容の定着を図る。 振り子の学習に関して、基礎基本的な内容を復習して振り子のきまりについての理解を深めていく。 実験結果から考察する活動を充実させ、友達と考えを伝え合う活動を通して、適切な表現で記述する技能を高めていく。
生命・地球	<p>平均正答率は市の平均よりやや高い。</p> <p>○「月と太陽」の設問では、校内正答率が全ての問題で市の平均正答率を上回っている。</p> <p>○「植物のつくりとはたらき」の設問では、校内正答率が全ての問題で市の平均正答率を上回っている。</p> <p>●「動物のからだのつくりとはたらき」の設問では、消化された養分は主に小腸で吸収されることを理解しているかという設問に対し、市の平均正答率を下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 動物の体のつくりや育ち方に関する理解の定着に課題が見られるので、一人一台端末のドリル等を活用して朝の学習などの時間に復習する時間を確保し、理解の定着を図る。 実験や観察だけでなく、デジタル教科書や映像などのICTも利用して基礎基本の更なる定着を図っていく。

宇都宮市立陽南小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
児童の自己表現力を高める 言語活動の工夫	・各教科で小グループでの話し合いの活動を取り入れ、自分の考えと友達の考えとの違いや新たな考えに気付かせるようにする。	・「話し合いに進んで参加している」の肯定割合が、市の肯定割合を上回った学年が多かった。「考えを理由や根拠を挙げながら話す」の肯定割合についても、市の肯定割合を上回る学年が多かった。
基本的な学習習慣の確立	・「陽南学習のきまり」の振り返りを行い、基本的な学習習慣を身に付け、落ち着いて学習に取り組めるようにする。	・「授業の始まりには席に着く」「友達の話を聞く」「忘れ物をしない」などの基本的な学習習慣についての設問において、学年により差があるが、市の肯定割合を上回る項目が多かった。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・学習内容定着度調査の結果だけではなく、国、県に関わるテストの結果を踏まえると、少人数グループでの言語活動の工夫により、進んで話し合ったり、話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、広げたりすることができるようになった児童が多かった。一方で、「書く活動」において、根拠を明確にしながら表現することについては、課題が見られる。引き続き、学び合いの中での言語活動の工夫を取り入れた授業づくりを行い、課題の解決を図っていきたい。